

コミュニケーション障害学特論

[講義] 第1・2学年 通年 選択 2単位

《担当者名》○橋本竜作 hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp 中川賀嗣 太田 亨 下村敦司 才川悦子 柳田早織

【概要】

大学院では、学問的関心の視野が狭くなる傾向がある。それを避けるために、研究の多様性を理解し、また学問的柔軟性を知ることにより、広い視点でコミュニケーション障害を研究する姿勢を身につける。

【学修目標】

一般目標：コミュニケーション障害に関わる研究の多様性を理解し、また学問的柔軟性を身につけるために、学内外のセミナーや学術集会などで専門領域以外の講演に参加し、その内容について理解できる。

行動目標：

1. コミュニケーション障害について幅広い知識を説明できる。
2. 学問に対する柔軟な適応力を実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～15	コミュニケーション障害	学内外で行われるセミナー、ワークショップ、シンポジウム、講演会、学術集会への出席	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 100%

【教科書】

使用しない。

【備考】

【学修目標】にあるように、特定領域に限らず幅広く聴講すること。

【学修の準備】

予習は、聴講予定の講演内容について、要旨でその概要を理解する。また疑問点などは文献や専門誌で調べておく。この際、質疑応答での質問内容を準備する（80分）。

復習は、講演内容および質疑応答の内容を整理し、レポートとしてまとめる（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

研究成果を学術的に発信できる能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

橋本竜作（公認心理師）、中川賀嗣（医師）、太田 亨（医師）、下村敦司、才川悦子（医師）、柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床経験を活かし、コミュニケーション障害について講義する。